

第7回日本医療安全学会学術総会学術大会『COI開示関連』  
本演題について開示すべきCOIはございません。

医療システム関連については今回のポスターEMR03・  
EMR04・EEMR05にて関連研究発表もごさいます。

# EMR01 遠隔医療画像診断サービス査読業務からの提言 — 第Ⅱ報 —

## UGサービス

## 内木場 健一(うちこば けんいち)

【 URL <https://www.ug-service.net/> 】



遠隔画像診断サービス査読(補助)業務

日本医療安全学会認定 高度医療安全推進者

日本医療機器学会認定 医療機器情報コミュニケーター(MDIC)

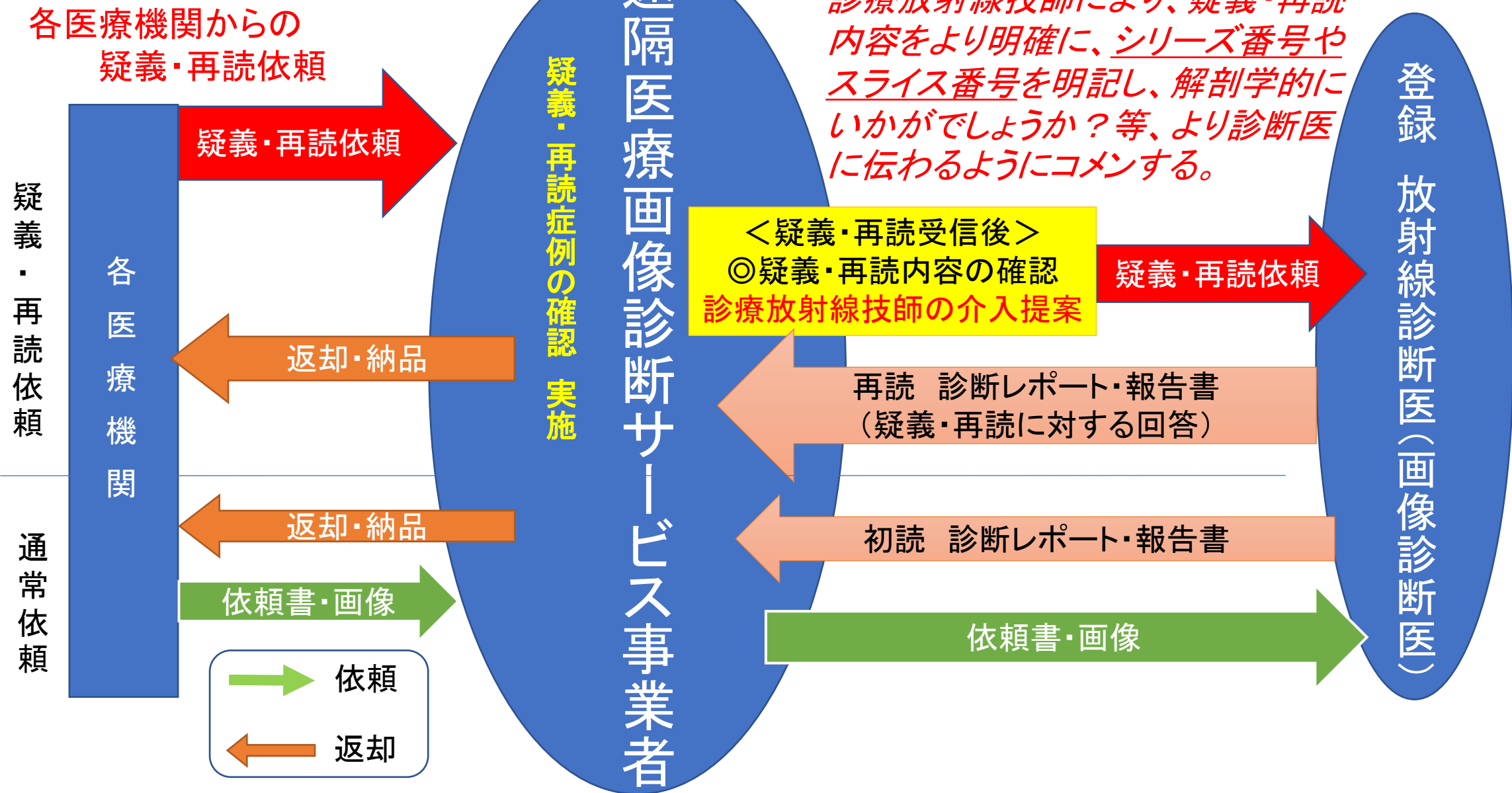
職種: 診療放射線技師 シニア放射線技師格

臨床実習指導教員・放射線機器管理士・放射線管理士

# 遠隔画像診断サービスの基本的流れ(概要) (各医療機関からの疑義/再読依頼)

## 疑義再読内容の確認

診療放射線技師により、疑義・再読内容をより明確に、シリーズ番号やスライス番号を明記し、解剖学的にいかがでしょうか？等、より診断医に伝わるようにコメントする。



<疑義・再読受信後>  
◎疑義・再読内容の確認  
診療放射線技師の介入提案

疑義・再読依頼

再読 診断レポート・報告書  
(疑義・再読に対する回答)

初読 診断レポート・報告書

依頼書・画像

疑義・再読依頼

返却・納品

返却・納品

依頼書・画像

→ 依頼  
← 返却

疑義・再読依頼

通常依頼

各医療機関

遠隔医療画像診断サービス事業者

登録放射線診断医(画像診断医)

# 目的

【キーワード: 査読業務】

医師の専門医制度により、画像診断は、放射線科医に頼らざるを得なくなっている。その放射線診断医（画像診断医）不足も深刻で、各医療機関に放射線診断医（画像診断医）が不在の施設も多数存在し、在籍されている施設でも、放射線診断医（画像診断医）の負担が非常に大きくなっている。

近年、遠隔医療画像診断サービス提供事業が各地で開始され、各医療機関へサービスの提供が始められている。

日本医療安全学会学術総会（前回大会）ポスター発表予定であった[PPM13]にて『問題点の考察』を4項目抽出した。

今回抽出した1項目『依頼する医療機関側の問題点』に焦点を当て第Ⅱ報として少し掘り下げて報告してみたい。

# 昨年の大会にて抽出した問題点

## 1) 依頼する医療機関側の問題点

2) 遠隔医療画像診断サービス提供事業者(企業等)側の問題

3) 放射線診断医(読影医)側の問題

4) 診療放射線技師側の問題

大きく分けて次の4つの問題点があると報告した。  
今回は上記**1) 依頼する医療機関側の問題点**に焦点を当て第Ⅱ報として少し掘り下げてご報告してみたい。

# 依頼する医療機関側の問題点

依頼情報は一方通行です。

## ①依頼内容が伝わらない！

概要：依頼内容に 記載が無い！ もしくは 読めない！

(1)臨床情報 患者様の基本情報・病歴

(2)検査目的 画像検査に至った経緯・目的・知りたい情報

上記情報が “**読める文字**” であり、“**要点を掴んだ文章**” であることが望まれる。

決して “空白(記載無し)” では、何も伝わりません。  
正しい情報が診断医へ届くようお願いしたい。

## 依頼する医療機関側の問題点

依頼情報は一方通行です。

検査目的等の情報無く、“ルーチン検査”が多用される事がある。

ルーチン検査とは、あくまでも医療機関側でのルールであり、依頼の場合には正しく理解されない。

ルーチン検査では、一通り見て頂けるが、“オーバージヤッジ”や“アンダージャッジ”につながり、

**【重要所見の見落とし】 や 【偽病変の報告】**

になりかねない。

医療事故や苦情、トラブルの要因としてリスクが非常に大きいです。

# 依頼する医療機関側の問題点

## 正確な医療画像

### ②検査目的に合った撮影がなされているか！

概要：検査目的が現場の技師に伝わっているか？

(1)依頼医師は、検査目的を現場の技師へ伝えているか？

(2)現場の技師は、患者様の病状を、カルテより情報収集し、検査歴（過去同じ検査歴あれば、同じ撮影条件にて撮影可能）の確認、検査目的を把握しているか？

(3)撮影終了直前に、撮影された画像を再度確認し、検査目的を満たしている等、レビューしているか？

# 依頼する医療機関側の問題点      正確な医療画像

## ②検査目的に合った撮影がなされているか！

概要：撮影範囲が検査目的に合致しているか？

(1)撮影範囲内に、“検査目的臓器”が網羅されているか？

(2)撮影開始位置・終了位置の画像に、有所見が無いか？  
有所見が見られた場合、追加撮影をしているか？

⇒副所見がよく見られ、あと数スライスあれば所見の見落とが無くなることがある。



## 依頼する医療機関側の問題点 正確な医療画像

### ②検査目的に合った撮影がなされているか！

概要：造影タイミングが検査目的に合致しているか？

(1)患者様ごとに、血液循環状態が違うので、患者様の状態を把握した上で、造影検査を実施しているか？

診療放射線技師や検査技師が装置の特性を熟知し、

**ECG同期撮影 や 造影剤自動感知ソフト 等**

有効に活用しているか？

(2)造影タイミングを逸してしまい、正確な病変の把握ができず、画像診断医が悩む画像を撮っていないか？

## 依頼する医療機関側の問題点

依頼情報は一方通行です。

画像診断レポートに対する“疑義・再読影”に関して、

「〇〇を見落としている！ 画像診断が私の診断と違う！」

→これでは、ご意見が分からない。伝わらない。

感情論では伝わる情報も伝わらない。

⇒「シリーズ△ イメージ番号××もしくはスライス番号×× の  
〇〇の所見はいかがでしょうか？ 等、より具体的なご指摘を希望します。

⇒より詳細な回答を追記、再読レポートとしてお届けできると確信しています。

今後、AI画像診断技術が進んでくると思いますが、画像のみでの診断より、患者様の『検査目的・臨床情報』など、【教師情報】を食べさせないと、精度の高いAI画像診断には程遠い物となる。より高度なAI画像診断には、必要不可欠な情報である。

『検査目的・臨床情報』 と 『正確な医療画像』 が必要！

⇒現状の画像診断でも必要不可欠である。

結 語

診療放射線技師による”査読業務“へ

依頼されるご施設様へ

**【依頼情報・送付画像】は**

**遠隔医療画像診断の “命の絆” と**

**理解してください。**